五所川原農林高等学校 PTAだより

涓流（けんりゅう）

第38号

命を学び、命を考え、命を育てる 笑顔輝く学校

The highlight

みどころ

2015五農ニュース……P2~3
PTA活動
保護者アンケート ……P4~5
瞬花終閧 ……P6~7
各学科研究室の紹介……P8

五所川原農林高校は大地に学び一人ひとりが主人公になれる学校です

第66回

日本学校農業クラブ連盟全国大会

プロジェクト発表会：区分 文化・生活

先人の想いと技術を繋ぎます
～津軽こぎん刺しの普及と伝承活動～

こぎん刺しの技術を学ぶとともに、こぎん刺しを活用する活動を展開しており、地元団体からの名刺入れの制作依頼を受けたり、全国にＰＲできるようポストカードの制作に取り組んだり幅広い活動を展開しています。

生活科学科３年６次産業研究室

成田　ゆめ

こぎん刺しの作品作りは大変でしたが努力の結果、プロジェクト発表会で全国大会まで進む事ができました。沢山苦労したことはあったけれども今までこぎん刺しについて学んだことを発揮することができたと思っています。一緒に頑張ってきた研究班の皆とこぎん刺しについて多くの人に伝えることができて良かったです。

齋藤　由香

これまで沢山のこぎんの作品を作ってきましたが、オリジナルの柄を考え、作ることは楽しかったです。各大会を通じて研究班のみんなでこぎん刺しの魅力をつたえてきました。全国大会まではやらなければならないことが多くたいへんでしたが、全国の優秀賞をいただけたのは、みんなで一生懸命頑張ったからだと思います。

外崎　椎奈

今回のプロジェクト発表は初めての事で、分からない事だらけでした。不安だらけのまま東北、全国へと出場しましたが、発表の私はなまりを直すことから始まりました。東北大会からは質疑応答への対応練習もしたため休みを返上して部活のように練習しました。その結果全国で優秀賞を獲得できてとても嬉しく思っています。

中山恵依奈

農業クラブのプロジェクト発表で全国大会まで進むことができて、研究成果を発表する経験ができて良かったと思っています。全国大会では、全国の農業高校の生徒が参加していて改めて農業クラブの一員なのだということを実感しました。優秀賞を受賞できて本当に嬉しく思います。

笹森　汐里

全国大会に参加して、私はタイムキーパーを担当しましたが時間を見ながら早いか、遅いかを発表者に伝えるのはとても緊張しました。でもしっかり自分の役割を果たすことができたと思います。優秀賞を取ることができて、今までこぎん刺しをやってきて良かったと思います。

小野　京香

研究班の活動が始まった当初、正直辛い、面倒くさいと思うことがありました。休日や放課後に活動することが多かったからです。でも、色々大会に参加することができてとても良い経験になりました。６次産業班のみんなと出会えたことに感謝しながら卒業迄の研究を頑張りたいと思います。

葛西　彩

全国大会で私はプロジェクターを担当しました。発表中に画面がずれると大変なことになるのでプレッシャーを感じていましたがミスなく終わって本当に良かったです。優秀賞をいただくことができて、一緒に頑張ってきた仲間に感謝でいっぱいです。

五農初の快挙

これまで本校で取り組んできた地道な**学習**・**研究**・**調査活動**の成果が全国の舞台で優秀賞３部門獲得という評価を得ることができました。

意見発表会：区分「環境」

地元深浦町で耕作放棄地が増え周囲に影響が出ている現状を指摘。農業と漁業を営む父とともに水田で環境負荷の少ない福士式地下かんがいシステムの実践に取り組んでいる様子を紹介。農地を守らなければ水でつながる海も守れない。白神の水をきれいなまま海に帰したいと意見発表しました。

生物生産科２年　三浦　光貴

今回の全国大会は私にとって学ぶことが多い大会でした。同じ区分の意見発表でも重点の置き方が違い、蛍を取り上げているところやミツバチやノシバ、里山の保全など今まで考えるたことのなかった話を聞くことができました。群馬大会は何もかも新鮮でした。来年の大会は大阪で開催されるので、やる気をだして全国大会出場を目指します。

農業鑑定競技会：区分 生活科学

生活科学科３年　一戸　美羽

私は２年生の時から農業鑑定で全国大会に行きたいと思い、頑張ってきました。昨年は悔しい思いをしたので普段から勉強へ取り組みました。その甲斐があって今年は出場出来ることになったのですが、プロジェクト発表の全国大会出場も決まってどちらをとるかとても悩みました。色々考えた結果、農業鑑定競技で出場することに決めました。大会当日の問題はそれまで勉強してきたにも関わらず大変難しいものでショックを受け落ち込んでいました。大会速報で、優秀賞を獲得できたと知った時は嬉しくて涙が止まりませんでした。２年生の時から継続して頑張ってきて本当によかったと思っています。

2015 五農ニュース

全国農業高校長協会認定「アグリマイスター」

本年度からスタート

五農高 全国最多 40人合格

今年度から全国農業高校長協会がスタートさせた「アグリマイスター顕彰制度」で本校の３年生40人がアグリマイスターに認定されました。農業高校１校で認定された数として全国最多で、生徒達が資格取得や多方面で積極的に活動している様子が、改めて評価されました。生徒の進学や就職にも生かせる制度として注目されています。点数の合計によりプラチナ、ゴールド、シルバーのアグリマイスターに認定されます。初年度は全国で126人が認定され、その約３割を本校が占めています。学校では授与式が行われ校長先生から「先輩方の後に続いて、全員がシルバー以上の認定を目指して頑張ってほしい」と激励を受けました。

国内農業高校で 初 「グローバルGAP」認証取得 ほぼ確実!!

本校は生産工程管理の世界標準であるグローバルＧＡＰの認定取得に取り組んできましたが、クリアすべき項目の達成率が高かったことから、国内農業高校初となる認定取得は、ほぼ確実になりました。

今回の取り組みでは、各項目をどの様に達成するか話し合ったりし、敷地内の林檎約900本の認定取得を目指してきました。重要項目である「上位の義務」の達成率は100％「下位の義務」は94％だったことから下位については対応を改善することで達成率を上げられることから認定取得はほぼ確実とされています。グローバルＧＡＰの認証取得のニーズは高まってきているのでその動きを是非県内外に広げていきたいと思っています。

県高総体 相撲

全勝でV びっくり 東北高校相撲選抜もV

今年の高校総体相撲の団体では、本校がリーグ戦５戦全勝で５年ぶり17度目の優勝を果たした。「凄く嬉しい」と選手達は喜びに沸き、高橋道尊監督は「厳しい試合もあったが選手達を信じた練習をいつも指導してくれたＯＢ達のおかげ」と感謝の言葉を話していました。

森林科学科３年　石森　大誠

６月の県高校総体では宿敵三農高を破り、５年ぶりとなる兵庫インターハイの切符を手にしました。夢にまで見たインターハイ団体戦への出場、私はたった一人の３年生でチームをリードしなければならず、プレッシャーを感じていました。名門五農、そして青森県を代表するチームの主将として何が何でも勝ち抜き、頂点を目指す決意で大会に臨みました。会場は兵庫県の淡路島、39度近い猛暑の中、コンディションを整えるのに苦労しました。本戦は、先鋒 葛西永遠（１Ｆ）、次鋒 松居将継（２Ｆ）、中堅 長内孝樹（２Ｅ）、副将 石森大誠（３Ｆ）、大将 山﨑勇真（２Ｆ）の布陣で全国の猛者に挑みました。我がチームは２年生主体のチームで、身体も小さく緊張もあって思うように力を発揮することができず、ベスト16で敗退しました。心を一つにして臨んだインターハイ、悔しさがこみ上げて涙が止まりませんでした。それでも青森の代表らしく、身体は小さくも自分より大きな相手に立ち向かった勇気は私たちの財産です。応援してくれた皆さんの期待に応えることができず、申し訳ない気持ちですが、弱くてどうしようもなかった私に「立ち向かう勇気」を育み、インターハイの舞台に上げさせてくれた五農に心から感謝しています。我が相撲部は２年生中心のチームなので、来年は再びインターハイの土俵台に戻り、大きな夢を実現してくれると信じています。

県高総体 陸上

最終投てきで逆転勝利をつかんだ 葛西真武君

昨年の大会が終わってから腰痛に悩まされ続けてきたが腹筋や背筋を中心とした筋肉の強化に努めた結果が実り自己ベストを更新しての優勝を果たした。

和歌山国体を終えて

環境土木科３年　葛西　真武

８月に出場したインターハイやり投げ競技では、実力を発揮できずに予選敗退という結果に終わってしまいました。その悔しさと３年間の想いをぶつけた３ヶ月後の和歌山国体では、第８位に入賞することができました。

目標としていた上位入賞と自己新記録更新は達成できませんでしたが全国の強豪選手と初めて力と力の勝負ができたことが言葉に表せないくらい嬉しく、もっともっと強くなりたい気持ちが強くなりました。

卒業後も大学でやり投げ競技を続け、日本のトップクラスの選手に成長できるよう頑張ります。

2015 PTA活動のいろいろ

今年もPTAは活躍しました
その中の主な活動を紹介します

4月 PTA入会式

5月 あいさつ運動

独り言　　PTA会長　斉　藤　　勝

五農のＰＴＡ役員を８年務めました。その間、渉外部のＹ先生とのふれられない思い出があります。平成20年９月26日、青森市内を県Ｐの懇親会の後に二人で飲み歩いているとヒョウが異常に降り、国道４号線が真っ白になったのです。その影響でりんご農家が甚大な被害を受けることになったのですが、その日は、自分の20年目の結婚記念日で、母の命日でもありました。（Ｙ先生とは不思議な関係です）

もう一つ高校時代にお世話になったＩ先生との思い出があります。高校３年生の夏、相撲部だった私は大会出場のため十和田市に宿泊していました。夜になって顧問のＩ先生が居ないと思い、つい手を出してはいけないものに手を伸ばすと鬼の形相のＩ先生に見つかってしまいました。今の時代では考えられない強い指導を受け、一瞬死ぬのかな～と思いました。それを引きずってか否か、次の日の大会での成績は惜けないものがありました。（今でも師匠とは不思議な有り難い関係が続いております）色々な出会いから終生忘れられない思い出ができ、付き合いも続いていきます。出会いの縁を大切に五農に幸あれ！！

全校田植え見学

6月 環境整備

7月 研修旅行

研修旅行に参加して　　PTA副会長　東　慎　治

普段、深く接することが出来ない先生方との交流はとても有意義な時間でした。

初めて義務教育から偏社会シュミレーションの場として自ら選択した高校生活では自我の開放の場でもあると同時に方向性を見失う年齢でもあると思います。子どもたちの個性を発揮させるために様々な先生が教育者として尽力されている姿と一個人としての交流により、家庭では見る事の出来ない外部での子供の姿を感じながら先生方の手厚い支援により多くの優秀な生徒を育て上げてきている五農高はこの地域の名門といっても過言ではなく、子供をこの学校に入れて良かったと研修を通じ実感した次第です。

また、普段見る事の出来ない特技やプロ顔負けの才能はとても素晴らしく函館の街の思い出よりも情報交換の場として楽しく良い思い出ばかりでした。

函館にて　　3学年主任　林　　豊　隆

８月29～30日にＰＴＡの研修旅行に参加して函館に行きました。

二日目、五稜郭で記念撮影の後、単独行動になりました。前夜の酒が残っていて、しばらく五稜郭内をふらふら歩きました。

その後、電車で函館山に向かいました。ロープウェイ乗り場までの上り坂でまた酒がぶり返してきました。しかし、天気も良く風も無く、景観らしい展望でした。しばらく見て山を下りようと売店に寄ったら、地元のワインの小瓶が目に入りました。二日酔いには迎え酒と決めて、集合時間までここで過ごすことにしました。２時間ほど360度のパノラマを堪能しました。

帰る頃には２本空けていました。赤レンガ倉庫へ向かう下りの南部坂は、ほろ酔い気分も手伝ってとても快適でした。

8月 全国高Ｐ連大会

全国高等学校ＰＴＡ連合会岩手大会　　ＰＴＡ副会長　清　野　　悟

今年の全国大会は、岩手で開催されました。大会セレモニーの後、私達は第３分科会に参加しました、分科会のテーマは生徒指導とＰＴＡということで身近に考えられるものでした。研究発表が我が西北地区の五所川原工業高校の松り、応援を兼ねていたのですが、聞れという気持ちから私自身が手にえています。学校の歴史、自校のＰ多を交えながら奥津軽五所川原をは大変興味らしいものでした。

大会終了後に、大会に参加した西一堂に会して、松なりました五所川て懇親会が開かれいあいと親睦を深北地区高Ｐ連の皆さんが山会長始め発表事務局と原工業高校の慰労を兼ねましたが、本当に和気あめることができました。

立佞武多協力

おにぎり配布

運行協力

9月 全校稲刈大会見学

健全育成委員会

高校生健全育成大会について　　渉外部　山　谷　芳　弘

平成27年度高Ｐ連西北地区協議会「高校生育成大会」は「いじめゼロを目指して～思いやりの心を持って～」を主題とし、本校事務局のもと市内オルテンシアで開催されました。東慎治健全育成委員長を始め、遠岩にご協力下さったＰＴＡの方々には、この場を借りてあらためて感謝申し上げます。ありがとうございました。また、本校生徒については２年環境土木科、斗澤佳浩君の大会宣言を始め、司会進行、駐車場や舞台設置、接待等の裏方の運営も非常に良く、生徒自身も自信になったことと思います。大会内容も来賓や来場者からとても喜ばれました。高校生の意見発表、いじめ経験をバネにして自分の夢であるプロ野球選手を現実にした今関勝さんの講演等、どれも共感・感銘を受けるものであり、参加者全員が今後役立つ内容だったこととと思います。

今後も「五農要」でいじめゼロに取り組んでまいります。

10月 五農祭

五農ＰＴＡ活動を振り返って　　研修委員長　外　崎　麻　紀

ＰＴＡの一員として活動して３年。色々な行事に参加してきましたがどれも楽しく参加させていただきました。春の挨拶運動では子供達の朝の顔を見ることができて爽やかな一日を始めることができました。田植え大会では泥まみれで一生懸命稲を植えている子供を見て、自分も田んぼに入りたくなりました。環境整備では稗心鬼の清掃の後の焼き肉が格別美味しかったです。

さて、五農の最大イベントである「五農祭」では餅つき担当になり、相撲部が振り下ろす杵にあいどりを入れたり、できたての餅を丸めて振る舞いました。五農祭では普段と違う子供達を見ることができて嬉しくなりました。私がＰＴＡとしてたびたび学校へお邪魔する機会が増えると、子供達の方から声をかけてくれる事が増えて私も自然に笑顔が増えていました。

ＰＴＡの役員は自分などに出来るのか不安だったのですが、そんな心配は先生方や他のＰＴＡの皆さんと交流していく中で杞憂に終わり、すべての行事一つ一つが楽しくて仕方ありませんでした。自分の子どもに「五農生の親にしてくれてありがとう」そしてＰＴＡのみんなに「仲間にしてくれてありがとう」と心から感謝したいと思います。

がんばれ人間脳！

校長　山　口　　章

「ダイエットが長続きしない」のは、脳の３層構造に関係があるということがわかりました。

アメリカのポール・マクリーンという学者によると、人間の脳は３層構造なのだそうです。一番の中心部、つまり、脳幹部分の脳は、何と、爬虫類の脳。生命維持機能の塊で、縄張防衛本能が強く攻撃的かつ排他的。生命が保たれることが最優先で、「変化」＝「死の危機」であり、この「変化」を嫌う性質も強いのです。

その上にある２層目、大脳辺縁系は、哺乳類の脳。喜怒哀楽の感情を司る脳で、快・不快の刺激で危険や脅威から本能的に逃避・攻撃する防衛本能の脳。

そして、いよいよ、人間脳とも呼ばれる大脳新皮質（右脳と左脳）が３層目に登場です。言語機能と学習能力、創造力など、人間に特に発達した知性・知能の源泉です。

ところで、私たちは、「意識的に」あるいは「無意識に」生活しています。例えば、「意識的に」の代表例は、善悪を判断して行動するようなことで、「無意識に」の代表例は「今から心臓をわざと２秒間止めます」が無理であるようなことです。無意識の生命維持活動で生きている部分と、善悪を考えながら社会生活を送っている部分との両方があるわけです。

驚くべきことは、無意識の行動を司る脳は、第１層と第２層で、何と 90%から 95%を占めているとのことです。この、食べて生きていれば良しの爬虫類と、「不快」即「攻撃」の哺乳類の脳が大部分だというのです。そして、５%から 10%しかない人間脳が、「おいおい、まてまて」と理性を働かせて人間としての行動を取らせているのだそうです。これでは、ダイエットも無理です。痩せるという「変化」は第１層が、辛いという「不快」は第２層が大嫌いだからです。

しかし、朗報は、第２層を味方につけることで戦況は逆転するということです。辛い運動や勉強も楽しいと意識することで「快」となり、第３層、第２層が協力して第１層を抑え込むのだそうです。オリンピック選手も社長も社会で成功している人は第２層を楽しませているに違いありません。

がんばれ人間脳！

保護者アンケートから見えてきたこと

教務主任
遠　藤　　豊

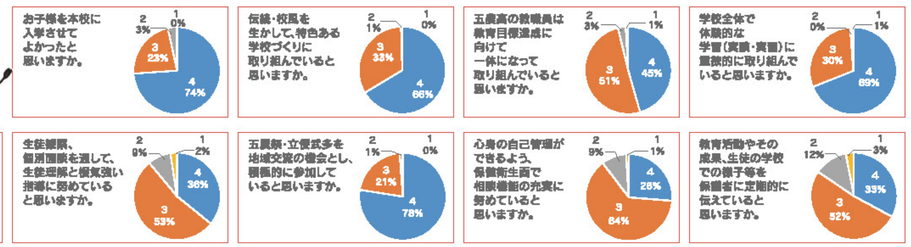
現在、五所川原農林高等学校は全国の農業系の高校の最先端を行くべく努力し、そして成果を上げています。また、進路実現状況も３年連続100%を記録し、保護者の皆様の期待に応えているものと自負しております。

アンケート結果にもありますように、「特色ある学校作りに取り組んでいるか?」「体験的学習に意欲的に取り組んでいるか?」「五農祭・立佞武多を地域交流の機会とし、積極的に参加しているか？」等では大変良い評価をいただきました。また、「お子様を本校に入学させて良かったか？」においても、「どちらかというとそう思う」を含め、97%の高い評価をいただき、今後も現在行っている活動を精選したり、新しいことにチャレンジしながら、地域の皆様の期待に添えるよう努力して参ります。

その一方で、「生徒の日常生活のことで、保護者と連絡を密にしているか?」「生徒観察、個別面談を通して、生徒理解と根気強い指導に努めているか?」「教育活動やその成果、生徒の学校の様子等を定期的に伝えているか?」では15%～ 20%近くの保護者から「そう思わない･どちらかというとそう思わない」と回答があり、更に工夫が必要であると感じています。

今後も、生徒一人一人を大切にし、社会に貢献できる生徒の育成に励んで参ります。何かございましたら、学校に連絡をいただくか、学校ホームページをご覧いただき参考にしていただければ幸いです。今後とも、五所川原農林高等学校をよろしくお願いします。

1.そうは思わない　2.どちらかといえばそう思う　3.だいたいそう思う　4.そう思う



瞬花終闘 ～仲間と咲かす笑顔の花～

がんばる五農生の姿で～す

宇宙毛豆　美味しい

宇宙毛豆の種を保存している本校生徒達と子ども園の園児達が中里町の野上健さんの大豆圃場で「宇宙毛豆」の収穫を体験しました。宇宙毛豆は２０１０年に宇宙に滞在した大豆のわずかな種子を増やしてきたもので、ブランド化させる取り組みを展開して今年で５年目となります。取れたての毛豆をその場で塩ゆでし、「とても美味しい」「とっても甘い」と好評でした。

競技大会

全校田植え

五農立佞武多

全校稲刈り

大空の下、伝統の稲刈り大会

全校稲刈り大会を５学科対抗で校内の水田で行いました。トンボが飛び交う大空の下で黄金色になびく稲穂を鎌を使ってザクザクと刈り取り、手際よく束ねて棒がけにしていました。作業のスピード、正確さ、チームワークなどを審査し、１位は生物生産科、２位は生活科学科、３位は食品科学科でした。

高校総体

駅からハイキング

五農敷地内約６キロコース散策

ＪＲ東日本の人気企画「駅からハイキング」が行われました。津軽鉄道の五農校駅前からスタートし、生物生産科の２年生３５名がガイドをしました。敷地内にあるビオトープでは生徒が池で捕まえたオタマジャクシなどを紹介し、また五所川原市の特産である赤いリンゴ「御所川原」について説明していました。参加者はりんごの収穫も体験する等ことができ喜んでいました。

五農祭

五所川原農林高校では各学科の課題研究で取り組んでいる研究があるので紹介します。

各学科研究活動

C科 食品科学科

食品流通研究室▶食品の流通に関する研究。米粉麺の販売拡大に向けて。

食品製造研究室▶スチューベンソースを利用したタルトの製造。商品化に向けて。赤いリンゴの加工品開発について。

食品分析研究室▶五所川原ブランド農産物を生かせる低糖質スイーツ商品化へ向けて。

6次産業研究室▶自分たちの栽培した野菜で商品開発。新商品開発。（アップルジェリー・「雪の国から星物語」）

★各研究室とも生徒が食に関する課題に自主的に取り組んでいます。

D科 生活科学科

6次産業研究室▶津軽こぎん刺しを身近な工芸品として地域に浸透させる。都心や観光客を中心にPR活動。

園芸福祉研究室▶野菜を栽培し、調理。草花の栽培を行い、施設の入所者や保育園児と交流する。

食文化研究室▶おからこんにゃくを普及させる。家庭で日常食べることができるような調理法・保存法の研究。

草花研究室▶菊の生育調査。五所川原ブランド菊の栽培試験。

★生活向上のために、それぞれが課題を設定し解決に向け日々取り組んでいます。

E科 環境土木科

水循環研究室▶未活用資源を使った水質浄化の研究。水質浄化剤の開発と農業排水路の水質改善。

測量研究室▶平板測量競技で日本一を獲る。

土木設計研究室▶世界中の橋の模型を作ろう。「橋梁模型」作品発表会上位入賞。

土木施工研究室▶環境保全型農業に関する研究。農業排水路の水質調査と圃場の土壌検査。福士式地下かんがい普及活動。

★浄化剤、製図、橋、地下かんがい装置などものづくりを中心とした研究に取り組んでいます。

F科 森林科学科

6次産業研究室▶自作ピザ釜の製造。地元食材を活用したピザの考案。

環境造園研究室▶校内の生け垣作り。前庭、資料館前の生け垣全面改修。

森林生物研究室▶野生動植物を活用した食材の研究。絶滅危惧Ⅱ類の植物キキョウの生育保全と繁殖についての研究

林業機械研究室▶産業廃棄物を使った炭作り。様々な機械を使い、炭作りに取り組む。

★森林科学科は県内唯一の森林に関する学科です。この学科でしかできないような森林や木材、自然素材を活用したさまざまな研究を楽しく行っています。

G科 生物生産科

バイオ研究室▶植物を実験室内で大量に増やそう。タラの芽の培養とサルメンエビネの順化。

野菜研究室▶宇宙毛豆プロジェクト。栽培方法の再構築。地域GAPによる生産者のクラブ化と情報発信、PR活動。

6次産業研究室▶あすなろ鶏卵の調査。五所川原ブランド鶏の飼育試験。

作物学研究室▶福士式地下かんがい法で水稲栽培。福士式地下かんがい法による生育データを明らかにする。収穫量向上、高品質米の生産。

★お米やりんご、野菜など植物の栽培を通して農業の楽しさを学んでいます。宇宙に滞在した毛豆やりんごなど、五農オリジナル農産物の研究に取り組んでいます。

第6回全国農業高校 お米甲子園

米作りを見つめなおし、世界でも有数な“日本のお米”誇りを持ち、その伝統を受け継ぐとともにさらなる発展を目指して欲しい。

五農はプレゼンテーション部門でグランプリ（日本一）を受賞しました

ちょっと一息

生徒指導主事　中山　伸

三大英雄のひとりアレクサンドロス（前356年～前323年）。古代ギリシャ時代に活躍したマケドニアの王です。エジプトを征服し、また征服した各地に新しい都市「アレクサンドリア」を作った人物です。そんな英雄にはいろんな伝説があります。

東方遠征に出かける前の宴会、つまり出陣式です。アレクサンドロスは22歳。このときアレクサンドロスは、自分の財産である森林や領地を分け与えてしまう。あまりにも気前よく財産を分け、アレクサンドロス自身の持ち物がなくなってしまったので、ペルディッカスという貴族が王にたずねた。

「王よ!あなたには何も残らないのではないですか?」それに対してアレクサンドロスが言ったというセリフです。

「私には希望がある!」

物が余り溢れている現在。それでも人間の物欲は尽きない。それよりももっと大切なものがあると、アレクサンドロスは教えてくれていると思います。希望があり、そしてそれに挑戦している時こそ、人間の欲が一番満たされているときなのかもしれません。

五所川原農林高等学校 PTAだより
渓流
第38号
青森県五所川原市一野坪字朝日田12の37
TEL 0173－37－2121
発行者：五所川原農林高等学校PTA
印刷所：有限会社 アート印刷